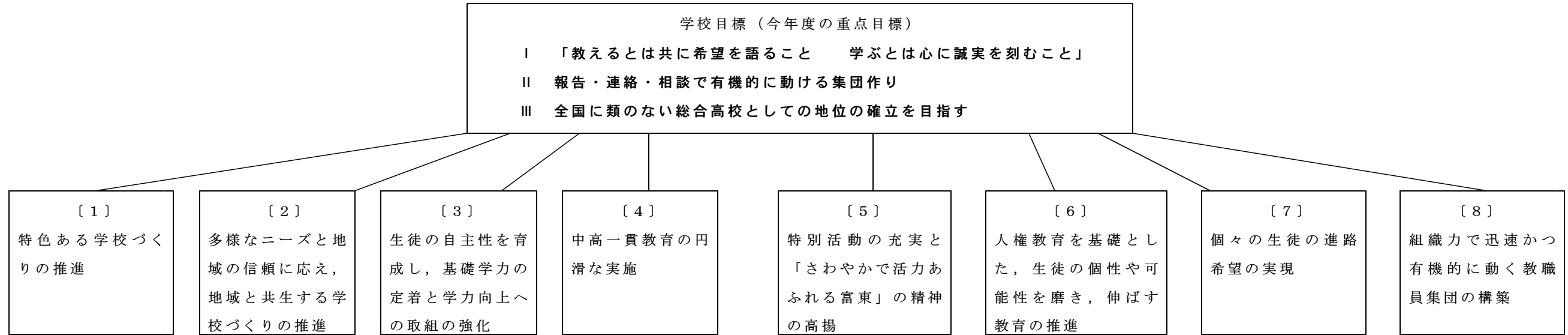


平成24年度

学校評価 総括評価表

徳島県立富岡東高等学校（本校 全日制）



自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	努力点	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見	
〔1〕特色ある学校づくりの推進	①富岡東としてのオンリーワン教育の実現 ②自立をめざす視点，共生をめざす視点，個性を重視する視点からの生徒の育成 ③伝統の継承と新たなアイデンティティの構築	評価指標	評価指標による達成度	総合評価 (評定) A' ----- (所見) ・地域や保護者からは，県南の雄として，おおむね好感を持って迎えられている。 ・進学や就職，部活動等においても目標に近い数値を達成できている。	
		・多様な課程・学科を持つ，県下で例を見ない特色ある学校として，その使命を果たし独自の校風を築く。 ・生徒一人ひとりを総合的に理解し，その能力と個性を最大限に活かし伸ばす教育を推進する。 ・責任ある社会人として自立し，仲間と協力し共生できる生徒を育てる。 ・学校生活における，すべての教育活動の充実と深化を図り，伝統を重んじる校風を育てる。	・県南地域の雄として，おおむね勉学や部活動，学校行事など豊かな教育が行えている。 ・ホームページのアクセス数は，435,763件と富岡東への関心が高いことがわかる。 ・普通科と商業科がそれぞれのよさを見習いつつ，「富岡東の百年」への歩みを進めていく。		
		活動計画	活動計画による実施状況		
		《全校レベル》 ・中学校，高校，全日制，定時制，商業科，普通科，看護科など多様な課程や学科の特性を生かした特色ある学校づくりをする。	《全校レベル》 ・各課程・各学科それぞれが，多様な課程や学科の特性を生かした特色ある学校づくりを工夫して実践した。		
		《下位組織レベル》 〔特別活動課・生徒指導課〕 ・各種学校行事を充実し，良き伝統が先輩から後輩へ受け継がれるよう，生徒会を中心に活動させる。 ・制服を美しく着こなす，さわやかな挨拶，奉仕精神など，本校の伝統的美質を伝える指導をする。	《下位組織レベル》 〔特別活動課・生徒指導課〕 ・富岡東祭（文化祭・体育祭），予餞会など生徒会の自主的な活動により，多くの学校行事が充実し，良き伝統が先輩から後輩へと受け継がれている。 ・遅刻者数の減少，挨拶の励行，服装・頭髪に対する意識の高揚の3点を重点目標として生徒指導にあたった。		
〔教務課・進路指導課〕 ・総合的な学習の時間を中心に自らの個性を見つめ，自分の進路や人生を切り拓く視点を持たせる。 ・すべての教職員の意見を尊重し，各行事に臨んでいく。 ・現行の良さを残しつつできる限り多くの新しい意見を取り入れ，より良い教育環境を目指す。	〔教務課・進路指導課〕 ・各先生方の意見が尊重されて，各行事が行われていた。 ・昨年までの行事等を大きく変更することはなかったが，中学生体験入学時などに使った，学校紹介のプレゼンテーションの中に，生徒へのインタビューを動画に入れるなど，細かいところを改良することができた。				
		各下位組織自己評価	〔特別活動課・生徒指導課〕 A ・生徒会長を中心に生徒会の自主的な活動により，富岡東祭・予餞会などの学校行事を推進できた。 B ・積極的な挨拶がでない生徒が見られた。		
		〔教務課・進路指導課〕 A ・「きめ細かな進路指導が行われている」という保護者は77.2%（昨年も77.2%） 「学校行事は適切なものである」という保護者は88.7%（昨年は92.2%）で良い評価をいただいているが，学校行事について，さらにより良くなるよう行事の精選を行いたい。			

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点目標	努力点	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見		
〔2〕多様なニーズと地域の信頼に応え、地域と共生する学校づくりの推進	①学校評価制度の活用と学校の活性化 ②教師と生徒、生徒相互そして教師相互の温かい人間関係の構築 ③ボランティア活動の推進	<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校評議員会及び学校評価に関する会議を開催し、意見を聞く機会を設ける。 ・ホームページを定期更新（月2回以上）する。 ・『ひがし倶楽部』を年間3回発刊し、小中学校等に配布広報する。 ・PTA総会の参加保護者50%以上をめざすとともに、11月23日創立百周年にむけた記念事業や式典の取組を推進する。 ・大学視察等、PTA研修会を実施する。 	<p>評価指標による達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は創立百周年記念式典等の準備・開催のため、1回しか「学校評議員会及び学校評価に関する会議」は開けなかった。 ・ホームページの更新は、部活動等の新聞掲載記録を中心に更新した。 ・『ひがし倶楽部』を年間3回発刊し、中学校での高校説明会の時などに配布し、各中学校の教室に掲示していただいた。 ・PTA総会の保護者参加率41%と昨年度より低下した。 ・京都方面の大学（京都大学・同志社大学）で見学や研修会を行った。 ・東京大学で、大学生との交流や見学会を行った。 	<p>総合評価</p> <p>（評定）</p> <p style="text-align: center;">A</p> <p>（所見）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校体験入学に参加して「とても良かった」が61%であり、昨年からの目標であった60%（昨年度58%）を何とかこえることができたが、さらに伸ばしていけるよう努力したい。 ・教職員が「熱心に授業に取り組んでいる」「授業に様々な工夫をしている」と答えた生徒はそれぞれ83.6%と78.4%であった。（昨年度は両方とも85%をこえていた。）昨年度が高かったというものもあるが、特に授業の工夫の面においてより一層努力していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アクセス数から見ても、ホームページ更新は良くできていたのではないかな。 ・生徒たちがより一層わかる授業の工夫をしてほしい。 ・評議員会の回数や時期も考えてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりわかりやすいホームページ更新ができるように努める。 生徒たちの意見を聞きながら、生徒たちが主体的に楽しめる学校行事を企画していきたい。 ・中学校とも協力して、全校あげてのボランティア活動等を企画し地域への広報も行って行くことが必要である。
		<p>活動計画</p> <p>《全校レベル》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育力を活用するため学校運営について、有識者から意見を聞き、学校運営に反映する。 	<p>活動計画による実施状況</p> <p>《全校レベル》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校評議員会及び学校評価に関する会議」を開催し、関係者から意見を聞き、学校運営の参考にした。なお、本年度は1回しか開催できなかった。 	<p>各下位組織自己評価</p> <p>A'</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会長を中心に生徒会役員等がボランティア活動で地域社会との交流を積極的に推進した。 ・部活動の応援をとおして協力体制やコミュニケーション能力を育み、「文武両道」を推進することができた。 ・ホームページ上で『ひがし倶楽部』等を通じ、学校の活動の様子を広報できた。 		
		<p>《下位組織レベル》</p> <p>[特別活動課・体育科・教務課]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会役員等を中心に地域のさまざまなボランティア活動等に参加し地域社会との交流を進める。 ・高校総体時には応援バスを出し、学校あげての応援態勢をくむなど「文武両道」を実践する。 ・ホームページ上で部活動の活躍や進路実績等の情報を積極的に提供する。 ・学校の活動を広く地域住民に広報する。 ・公開授業の実施。 	<p>《下位組織レベル》</p> <p>[特別活動課・体育科・教務課]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会役員を中心として、阿南市の老人体育大会・成人式などの機会にボランティアとして参加し、地域社会との交流を深めることができた。 ・総体や選抜大会の決勝など応援バスを出し、全校あげた協力体制で「文武両道」を推進することができた。 ・公開授業は10月21日（日）に実施した。 	<p>各下位組織自己評価</p> <p>A'</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会長を中心に生徒会役員等がボランティア活動で地域社会との交流を積極的に推進した。 ・部活動の応援をとおして協力体制やコミュニケーション能力を育み、「文武両道」を推進することができた。 ・ホームページ上で『ひがし倶楽部』等を通じ、学校の活動の様子を広報できた。 		
		<p>[総務課・各学年]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総会の行事内容を保護者のニ 	<p>[総務課・各学年]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA総会の午後、各ホームルームで学 	<p>[総務課・各学年]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・限られた時間内で 		

	<p>ーズにあったものになるように工夫し、総会欠席保護者には、総会資料の配付や三者面談時に総会内容に触れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P T A総会後に保護者と学級懇談会または個人懇談の機会を設け、学年やクラスの方針、行事等について相互理解を深め、家庭学校間のサポート体制を築く。 ・保護者との情報交換を行う。 	<p>級懇談会または保護者との面談を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中にも三者面談を実施し、ホームルーム経営や進路指導への理解を深めてもらい、協力体制が築けるよう配慮した。 ・総会欠席者には総会資料を配付した。 ・P T A総会の後、進路講演会を実施し、ニーズに合った有益な情報を提供できた。 	<p>[各学年・各教科・教務課・進路指導課]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生体験入学は8月17日(金)に、ふれあいフェスタは7月29日(日)に、公開授業は10月21日(日)に実施した。 ・中学生体験入学と公開授業の参加者は400人を何とかこえることが出来たが、ふれあいフェスタの参加者は400人には届かなかった。 ・中学生体験入学では、中学生に合った内容で、高校の学習内容に興味関心を持てるような授業展開を工夫した。 ・各教科で工夫して中学生にも興味を持てる体験授業を計画・実施した。 ・保護者対象の進路説明会を実施し、学年の現状や課題、今後の進路の展望、入試制度の変更についての情報提供と相互理解を行った。(分科会は商業科・普通科に分かれて実施した。) <p>(1年 82名 2年 72名 3年 94名)</p>	<p>A</p> <p>はあるが、有意義な面談となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任と保護者との相互理解が深まった。 	<p>[各学年・各教科・教務課・進路指導課]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科とも、さらに工夫を重ねたい。 ・就職や入試情報についての理解が深まり、生徒の学力向上に向けての保護者の役割について理解が得られた。 ・中学生体験入学は402人、ふれあいフェスタは約300人、公開授業は432人であった。 ・大いに興味・関心を持ってもらえたと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多数の人々に学校の実情を見ていただけるよう、企画や広報の方法を工夫していきたい。 ・400人をこえる中学生にきてもらえるのはすごい。 ・1年、2年の保護者にもより多くの参加者があるよう、内容を工夫・改善する。
--	---	---	--	--	---	---

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	努力点	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見	
〔3〕生徒の自主性を育成し、基礎学力の定着と学力向上への取組の強化	①生徒が意欲的に取り組む授業の創造と、生徒の確かな学力の育成 ②指導内容の精選と指導方法の工夫改善 ③自ら考え行動し解決できる資質や能力の育成	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	・相互授業参観等を行い、授業力の改善努力をしている。 ・授業評価の結果も低く見ないでも良いと思う。自信を持って良い評価を・・・ ・家庭学習時間等調査については経年変化等を分析し、対策を立てていく。 ・時間だけでなく、質的な向上も指導していく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・学習に対する意欲や達成感の向上→70%以上 ・一週間の総家庭学習時間（考査前～考査中）→一人平均30時間以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習に対する意欲や達成度の向上」は68.3%があてはまると回答。「教職員は、生徒の家庭学習の習慣づけのために、課題を出す等努力している」は生徒の70.9%があてはまると回答。 	（評定） B	
		活動計画	活動計画による実施状況	（所見） ・生徒の授業への満足度は79.0%であった。（昨年度は87.3%） ・〈理科〉授業の説明や手順の工夫を通じて、高い水準の授業づくりを推進している。目標を高く設定しているので、88.5%の生徒の良い評価であったが、評定はBとした。	
		《全校レベル》	《全校レベル》		
		・「学力向上検討委員会」において生徒の学力向上を図る授業の展開を促す。	・「学力向上検討委員会」や職員会等で、生徒の学力向上を図る授業の展開をお願いした。		
		《下位組織レベル》	《下位組織レベル》	各下位組織自己評価	
[学力向上検討委員会]	[学力向上検討委員会]	[学力向上検討委員会]			
<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業・公開授業・外部講師招聘による教員研修や授業評価アンケート等を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業・公開授業による教員研修や授業評価アンケート等を実施した。 	A ・授業評価アンケート等では、概ね良好な結果であった。			
[各教科会]	[各教科会]	[各教科会]			
<ul style="list-style-type: none"> ・教科（科目）ごとに設定した研究テーマに基づく授業を実践し、さらに相互評価を通して、よりよい授業の指導方法を研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・科目ごとに目標を設定し、それに基づく授業実践を行った。 ・小テスト等において各生徒の理解度を把握し、個々の生徒の状況に応じた指導を工夫した。 	B ・設定目標に基づく授業展開ができ、基礎的な学力の定着を目指せた。 ・苦手な生徒には進度がやや早めになっているようだ。 ・授業評価アンケートの結果をみるとおおむね良い評価が出ているが、目標設定が高いので、評定はBとした。			
[各学年会・各教科会・進路指導課]	[各学年会・各教科会・進路指導課]	[各学年会・各教科会・進路指導課]			
<ul style="list-style-type: none"> ・生活記録や生活実態調査を通して、各クラスの生徒の状況を把握し、基本的な生活習慣の確立、特に学習時間の確保ができるよう助言する。 ・教科担任は課題を出し、ホームルーム担任は学習記録表を提出させる等、家庭学習の習慣が 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内で必要に応じて個別に実技指導を行った。 ・確認テストや課題提出を定期的実施し、生徒一人ひとりの学習内容理解の把握を行った。 ・1学期と比較すると学習時間は確実に伸びている。 ・ホームルーム担任は生活記録や面談をと 	A' ・実技テストにおいては全員が基礎的な技術を獲得した。 ・課題の提出率は100%だが、確認テストについては学習が不十分な生徒もいた。 ・各学年で必要かつ			

定着するように努める。

おして各生徒の実態を把握し、個々に応じた指導助言を行った。

・富東タイムを利用して、自学自習する習慣が身に付くよう促した。

重要な基本的学習習慣が身についた。

・各担任はそれぞれ工夫して生徒の実態把握に努め、生活記録も毎日チェックし、コメント記入をまめに行っている。

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	努力点	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見	
〔4〕中高一貫教育の円滑な実施	①中高教員が連携した計画的継続的な指導計画を作成 ②ホームページのさらなる充実 ③開かれた学校づくりの推進 ④心のふれあう校風の樹立	評価指標 ・中学生と高校生の学校行事、生徒会活動、部活動等における交流充実を図る。 ・中高教職員による教科会を実施を目指す。 ・中高教職員による授業交流や進路研究会を行う。 ・中高一貫教育を生かした教育課程の編成と教育内容の創造。	評価指標による達成度 ・学校行事等において可能な限り合同で行った。 ・英語・数学・体育で高校の教員と中学校の教員が合同で中学校の授業を実施し、その授業をととして高校の教員が中学生の学習内容や到達度を具体的に把握することができた。	総合評価 （評定） A'	・富東中学から高校へ上がってくる生徒と他の中学からの生徒とのクラス編制や担任、入学時（接続）の授業指導を充実させる努力を。
		活動計画 《全校レベル》 ・中高相互の授業見学，研究授業及び研究協議を行う。	活動計画による実施状況 《全校レベル》 ・相互授業参観（6月）を行い，中高相互の授業見学，研究授業及び研究協議を行った。		
		《下位組織レベル》 [教務課・進路指導課] ・教科（科目）ごとに教育課程を検討し，編成する。 ・シラバスを作成する。 ・面接をととして，将来の進路希望等を考えさせ，自発的活動を促す。	《下位組織レベル》 [教務課・進路指導課] ・各教科の教師の意見を反映させた教育課程を作成することができた。 ・各教科ごとにシラバスを作成した。 ・個別面接を多く実施し，将来のことを考えさせるとともに，生徒の自発的活動を促した。	各下位組織自己評価 [教務課・進路指導課] ・教育課程検討委員会では全ての教科の協力体制ができ，満足のいくものができた。 ・各教科のシラバスも検討を重ね，良いものができた。 ・面接を多く実施し，生徒の進路に対する意識の向上ができた。	
		[特別活動課] ・富東祭（文化祭・体育祭）を中高合同で開催する。 ・部活動で中高合同の練習を行う。	[特別活動課] ・富東祭（文化祭・体育祭）で初めて中学校のすべての学年が揃う形で開催することができた。 ・部活動についても，中学校のすべての学年が揃い，単独で活動できるようになってきた。	[特別活動課] ・中高一貫教育体制の確立に向け，さらなる工夫が必要である。 ・部活動の活動場所，中学と高校の連携について，さらに配慮が必要である。	

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点目標	努力点	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見		
〔5〕特別活動の充実と「さわやかで活力あふれる富東」の精神の高揚	①挨拶，マナー等の基本的な生活習慣の確立と定着 ②「食育の推進」と心身ともに健全な生徒の育成 ③たくましく生きる精神力と，心豊かな人間性の育成 ④環境問題への意識高揚の喚起 ⑤校内外の環境美化に積極的に取り組む態度の育成 ⑥安全教育や防災教育の徹底と事故防止への取組の強化	評価指標 ・生徒指導方針に賛成である → 90%以上 ・遅刻をしない → 90%以上 ・身だしなみをきちんとしている → 90%以上 ・豊かな人間性を育むために学校行事を積極的に計画する。 学校行事への満足度→ 80%以上 ・部活動の加入率（1・2年） → 100%をめざす ・四国大会，全国大会出場部数の増をめざす。 ・文化部のコンクール等参加を促進する。	評価指標による達成度 ・生徒指導方針に賛成である → 56.9% ・遅刻をしない → 92.9% ・身だしなみをきちんとしている → 92.1% ・学校行事への満足度 → 79.4%	総合評価 （評定） A' （所見） ・基本的な生活習慣（服装・頭髪等）は，大多数の生徒ができています。限定された一部の生徒が寝坊などの理由で遅刻する。 ・部活動は，「文武両道」をモットーに「さわやかで活力あふれる富東」精神の高揚や学校活性化に役立っている。		
		活動計画 《全校レベル》 ・生徒指導課が中心となって全教職員間で共通理解を図り，望ましい生活習慣の育成に努める。	活動計画による実施状況 《全校レベル》 ・学期ごとにあいさつ運動や昇降口指導をとおして，教職員間で共通した指導ができた。			
		《下位組織レベル》 [学年会，生徒指導課，各教科会] ・挨拶の励行や清掃活動への自主的かつ主体的な取組を促す。 ・HR担任と教科担任は，始業のチャイムを教室で聞く。多遅刻者の指導については，保護者への連絡を密にする。	《下位組織レベル》 [学年会，生徒指導課，各教科会] ・昇降口指導において，挨拶など基本的な生活習慣の確立と服装・頭髪についての指導をおこなった。 ・朝の富東タイムまでに登校するように指導することで，遅刻者はほとんどいない。 ・挨拶や5分前行動ができるよう学年全体で指導した。			各下位組織自己評価 [学年会，生徒指導課，各教科会] ・各学年とも遅刻者はほとんどいない。 ・これからも粘り強い指導が必要であるが，大多数の生徒はできているようだ。
		[生徒指導課] ・ホームルーム活動，全校・学年別集会を通して服装・頭髪・マナーについての自覚を高める。 ・交通マナー，事故防止についての指導を行う。	[生徒指導課] ・身だしなみ 92.1%（昨年 91.8%） ・遅刻をしない 92.9%（昨年 90.0%） ・自転車利用生のマナーについて指導の徹底を行った。			[生徒指導課] ・命の大切さとともに，自転車は加害者ともなり賠償責任が生じることなども指導していく。自転車マナーの苦情をいただくこともあり，その都度指導しているが生徒の意識改革までは至らなかった。
						・加害者になることもあるので，自転車のマナーアップの徹底を図ってほしい。
						・生徒の自転車のマナーアップについて，意識改革ができるよう継続的な指導を行っていく。

		<p>[特別活動課]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動紹介や部登録の時間を設定し，入部を促す。入部率1・2年においては100%をめざす。 	<p>[特別活動課]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学後すぐ，部活動登録や部登録の時間を設定した。複数入部も可能なので入部率各学年で100%以上を達成できた。 	<p>た。</p> <p>[特別活動課]</p> <p>A'</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生は原則全員入部としているが，複数入部を可能としているので，2・3年生においても入部率100%以上を達成できた。 <p>[環境・保健厚生課]</p> <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの分別の徹底はできるようになったが，校舎内の清掃の取りかかりが遅かったり，手抜きが見られたので，今後徹底する。 ・校内美化に関する行事を少し増やしたい。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地震津波等，防災教育の啓発や避難訓練を行い防災意識を高める指導。 ・さらなるゴミ分別の徹底。 <ul style="list-style-type: none"> ・保健の授業等で野菜摂取の重要性を指導する。
--	--	--	--	--	--	--

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	努力点	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見	
〔6〕人権教育を基盤とした、生徒の個性や可能性を磨き、伸ばす教育の推進	①教育活動全体を通じた人権教育の推進 ②温かい人間関係にまつまれた学級づくりの推進と生徒理解の深化	評価指標	評価指標による達成度	総合評価 (評定) A'	
		<ul style="list-style-type: none"> 『富東人権新聞』の発行回数7回以上/年 生徒対象の人権教育講演会等の実施 人権問題教職員研修会を年3回実施 	<ul style="list-style-type: none"> 『富東人権新聞』は7回発行した。 人権啓発講演会を中・高生、保護者、教職員を対象に実施。(10月19日) 人権問題教職員研修会を3回実施。(5月・12月・3月) 		
	③自他の尊厳が重視される教育環境の構築 ④生徒の自主的な活動の推進 ⑤学校・家庭・地域・関係機関との連携の緊密化と協力体制の構築 ⑥人権問題の解決のために主体的に取り組む実践力の育成	活動計画	活動計画による実施状況	(所見) ・PTA地区別研修会や『富東人権新聞』,人権教育ホームルーム活動等を充実させ,学校をあげてこれからも人権意識の向上を図っていく。 ・知的理解はある程度できるが,それが他の人権課題や普遍的な人権に結びついていない。	
		《全校レベル》	《全校レベル》		
		<ul style="list-style-type: none"> 人権意識の高揚を図り,同和問題をはじめ様々な人権問題解決の意欲と実践力をもった生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識の理解と実践に意識の乖離がみられる。人権意識高揚の徹底が必要である。 		
		《下位組織レベル》	《下位組織レベル》	各下位組織自己評価	
[人権教育課]	[人権教育課]	[人権教育課]	A'	<ul style="list-style-type: none"> 「人権を尊重するためのさまざまな取り組みが行われている」と答えた生徒は82.3%で,昨年と同じく80%以上を達成した。 	
<ul style="list-style-type: none"> 人権教育ホームルーム活動を充実させ,各クラスの状況に合わせて資料等を探し,展開等の工夫をする。 富東祭において「人権問題啓発ポスター展示」等を行う。 月1回の「富東人権の日」に『富東人権新聞』を使って啓発する。 『富東人権新聞』を家庭に持ち帰り,保護者にも読んでもらい人権意識の高揚を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育ホームルーム活動→1・2年生は6回,3年生は5回実施。 富東祭において人権問題啓発ポスターの展示,ホープサークル部の活動報告展示,人権週間(12月)にポスター・標語・書道作品の展示を実施。 『富東人権新聞』を7回発行し,さまざまな人権課題を取り扱った。 ホームルーム担任やPTA地区別研修会をとおして『富東人権新聞』を使って,家庭で人権問題について話し合いを実施していただくよう呼びかけた。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の立場にたった言動ができている生徒が約95%とはすごい数字だ。 学校に来ることが楽しい生徒90%とはすばらしい。 			

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策			
重点目標	努力点	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見				
〔7〕個々の生徒の進路希望の実現	①進路相談の充実と進路実現への取組の強化 ②教育的支援が必要な生徒に対する個別カウンセリングの重視 ③生徒個々の状況を把握することにより進路実現に向けた支援の充実	評価指標 ・生徒の進路について検討会を行う。 ・難関大や医歯薬系の合格者20名以上をめざす。 ・インターンシップを体験させて、自分にあった職業を選択する契機とし、就職内定率100%をめざす。 ・商業科では、全商1級3科目以上取得者50%以上をめざす。 ・教育相談会議を開き、生徒理解に努め、生徒の進路実現と自己実現を支援する。	評価指標による達成度 ・検討会を7月・10月・12月・1月に行うとともに、必要に応じて個別に検討を行った。 ・就職内定率88%（1月末現在） ・1級3種目以上取得者51.3%（1月末現在）	総合評価 （評定） A' ----- （所見） ・検討会を複数回行うとともに、進路相談も行い、生徒の進路希望達成のための協力が深まった。	・進学実績も素晴らしい。これを維持向上できるように先生方も大変だろうが・・・ ・就職担当課員だけでなく、管理職とともに県内企業への新規職場開拓を行っている。			
		活動計画 《全校レベル》 ・進路指導課と教育相談・特別支援課が協力し、全教職員の共通理解のもとに、生徒の進路実現と自己実現を支援する。	活動計画による実施状況 《全校レベル》 ・こころのよわい生徒への対応や支援を、担任や関係職員を含む全職員で協力して、より迅速に行う必要がある。					
		《下位組織レベル》 [学力向上検討委員会・進路指導課] ・部活動と学習の両立を、ホームルーム活動や学年集会等で指導する。 ・面接指導等をおして、生徒の特性や長所などを把握する。 ・オープンキャンパス参加等で進学への意識づけを行う。 ・職業観や勤労観の育成に努めキャリア教育を推進する。 ・検定対策補習や進学補習を充実させる。 ・卒業生との進路対談会等を実施する。	《下位組織レベル》 [学力向上検討委員会・進路指導課] ・学年集会やホームルーム活動、また面接を通して、学習と部活動の両立を意識づけさせ、努力をさせた。 ・面接等を通して、生徒の特性や長所を把握した。 ・オープンキャンパスや大学訪問等で進学への意識づけをした。 ・土曜日補習や長期休業中の進学補習をできるだけ多く実施した。			各下位組織自己評価 [学力向上検討委員会・進路指導課] A ・学年集会・HR活動・面接・各行事を通して、生徒の進路や学習に対する意識づけができています。	・商業科生徒にもオープンキャンパスへの積極的参加をすすめる。 ・土曜日補習の持ち方等を全教職員共通理解のもと検討していく。	
		[各学年会・教育相談・特別支援課] ・個人面談や三者面談をおして、生徒理解に努め、一人ひとりの希望に応じた進路実現をめざす。 ・生徒一人ひとりを深く理解し	[各学年会・教育相談・特別支援課] ・支援が必要な生徒に対し、家庭訪問や面談を実施したり、日々の連絡を取り合ったりして、連携を図った。 ・定期的に検討会を開いてサポート体制が築けるよう、情報共有や支援・指導につい			[各学年会・教育相談・特別支援課] B ・本人や保護者の納得のいく支援ができた。 ・学年全体で生徒を支えることが今後の		・進路希望実現に向けた早期の意識づけが必要。

保護者の願いを受け止め、適切な指導及び必要な支援を行う。

ての検討を行った。
・面談や学習生活記録のチェックをとおし、日々生徒の理解に努めた。
・問題を抱えた生徒については、家庭と連絡を密にとり、保護者からの要望や生徒本人の思いを理解し、支援を行った。

課題である。

・本人の希望だけでなく、本人が気づいていない能力を見抜き、進路先を提示できるようにする力を養う。

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点目標	努力点	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見	
〔8〕組織力で迅速かつ有機的に動く教職員集団の構築	① 個々の教師に頼ることなく、「報告・連絡・相談」の意識を徹底 ② 生徒の状況等について教職員が情報を共有する環境の整備 ③ 教職員が自主的に研修に参加し、資質の向上のために自己研鑽に励む意識の高揚 ④ カウンセリングに関する専門的な知識やスキルの会得と、協働する組織の構築	評価指標 ・コンプライアンス、情報セキュリティ等の啓発活動を充実させる。 ・不祥事を未然に防止する「風とおしのよい職場環境づくり」を推進する。	評価指標による達成度 ・職朝など短時間を利用してコンプライアンス意識向上の積み重ねを図る。 ・「風とおしのよい職場づくり」はできている。	総合評価 （評定） B （所見） ・交通違反が発生したので、今後、交通安全・マナー等意識改革の徹底を図っていく。	・事後報告にならないよう、「報告・連絡・相談」をさらに徹底していく。『校長先生はそのことを知っていますか？』を合い言葉に。 ・早期に支援の必要な生徒への対応ができるように組織で対応していくことの徹底。
		活動計画 《全校レベル》 ・教職員集団や個人の規範意識を高める。	活動計画による実施状況 《全校レベル》 ・外部より講師を迎えカウンセリングや心理について、研修会を行った。		
		《下位組織レベル》 [各学年・教育相談・特別支援課] ・学年主任を中心に、「報告・連絡・相談」の意識をもって、生徒の指導や支援にあたる。 ・コンプライアンスの遵守やカウンセリング、特別支援教育についての専門的な講演会に参加する。	《下位組織レベル》 [各学年・教育相談・特別支援課] ・支援が必要な生徒に対して、学年主任や担任・教科担任と情報共有を図り、生徒の指導や支援を行った。 ・生徒理解に必要な研修会や講演会に参加し、指導や支援の仕方の共通理解を図った。 ・学年全体で組織として機能することは概ねできていて、生徒の情報を共有し必要に応じて教育相談・特別支援課や管理職と連携しながら、助言や支援を行った。しかし複雑な問題を抱えた生徒については担任個人の関わりにとどまっている場合もある。	各下位組織自己評価 [各学年・教育相談・特別支援課] ・必要に応じて、連絡や意見交換を行い、教職員が共通理解のもと、生徒の指導や支援を行うことができた。 ・学年全体で生徒を支えることが今後の課題である。校務多忙で、学年で話し合う機会が少ないことも一因である。	
				B	